



平成十八年十二月二十日

〒九三二〇八四

高岡市問屋町四十

有限会社 沖商店発

TEL 〇七六六一五五〇〇

FAX 〇七六六一五五〇〇

E-mail info@oki-shouten.com

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』という二つを皆様と一緒に考え、意見を交換し相つて、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無い意見を寄せさせていただきます。

一 神からの授かりものは公のもの

先号、第四項「神からの頂き品」で申し上げた『富久品』『ふくもの』の続きです。

先号を読んだ私の社員が「社長、折角、神から頂いたアイデア『富久品』を意匠登録しませんか」と進言しました。私は「神から頂いたものを私物化する気はありません」と言いました。それでこの度は、特許と有意匠登録などに就いて考えたいと思います。

今日、「智的財産の保護」などと言って物質ではなく、目に見えない、アイデアとかシステムを「特許申請」とか「意匠登録」をして自分だけの利を図ることが当たり前になっていきます。米国をはじめ先進国とされている国々の人は、「特許」「意匠登録」など、特許を武器として利用し、自分は直接肉体を動かさないので所得（不労所得）を得ることがばかり考えています。そしてそんなとに長けた者ほど優れた者だと思われています。（但し、そうとは言えないのは、中国の物真似、度を越えたモラル破りの海賊版製品の回りに頭を悩ましていますが）

日本にも「二子相伝」などと言って「特殊技術は、門外不出、他人には絶対教えず、親から子へ、しかも一人の子にだけ秘伝する」と言う方法がありました。その心は「その家の生計を守る手段として、他人に真似をさせない。そのために、自分だけの秘密の術としなければならぬ」という精神です。確かに、他人の持たない技があれば人々に重宝がられ、それ故、物心ともに豊かな生活ができます。これは、パテント制度のない時代に、自分の存在価値を高め、生活を豊かにするための手段だったと考えられます。

このように、人は自分の生活を豊かにするために、他人には真似のできないものを得ようと努力します。

先日、任天堂が最新ゲームソフトを発売した際、それを購入するために、二万五千円もするものを、一販売店で二千余人の人が列を成したと、報道されましたが、これもパテントのお陰で、そのゲームソフトの開発のために、陰で多くの人の努力があったことでしょう。

また、トヨタグループが利益、二兆余円になるとの報道がありました。これも他人に真似のできない技術を武器に、世界へ展開して行った結果で、その経営戦略には並々ならぬ努力が払われていると思われまます。また今月十五日、プロ野球界で活躍している松坂大輔と米大リーグ、レッドソックスとの入団交渉が合意に達したと報道されました。今までの所属球団、西武ライオンズ球団に60億円の入札金を支払い、本人に62億円の契約金を支払うと言う、米大リーグ史上にも稀な出資ですが、当のレッドソックス、ルキナーノ球団社長は「疲れ果てた。そして恍惚状態だ」と松坂の獲得を喜んでいて、ということですから、これまた、松坂大輔ならでの出来事でしょう。イチロー、松井秀喜も同様ですが、彼らはそれだけの素質（目に見えない力）神・仏・天から与えられたもの、もさることながら、それを最大限に発揮すべく、自を鍛えて（努力して）いるのです。

このように「他人の真似のできない、勝れたものを持つている」人は、力を合せ相つて生活している人間社会に於いては、それだけ他人に貢献でき（役立ち）、喜ばれ、そんな人はそれで自分の生活を豊かにすることができるといえます。

しかし、私は「他人に勝れたものを、自分の生活を豊かにすることだけの手段にする」という考え方には賛成できません。「他人に勝れたもの」は「目に見えない力」神・仏・天から与えられたもの、と思えば「素晴らしいアイデアも、すべからず、神からの頂きものであって、自分だけの力で考え出したと言っているのはその人の驕慢である」と思っています。

古今東西、素晴らしい発明をした人は、ほとんどと言ふより全員、「神（仏・天）」と言われる目に見えない力（霊力）の存在を肯定しています。そしてその動機・精神は「もつと相手（他人）を榮にさせてあげたい、もつと人々（多くの他人）を豊かにしてあげたい」という、他人を慮る、崇高かつ純粹な共通している力があるのだと思っています。

先日、テレビで素晴らしい医者の報道がされていました。それは或る有名大学の医学部（外科）の教授が、最新医療器具と最先端医療技術を駆使して、数年前まで死亡するのが当然とされていた患者を、見事この世

に蘇らせた外科手術の様を伝えたものでした。その外科手術の内容の素晴らしさもさることながら、私が感銘したのはその先生の態度・言葉でした。曰く「私は恵まれてこの様な技術を身に付けることができませんでした。これ（技術）は私だけのものではない。この技術を少しでも多くの学生（人）が少しでも早く習得し、少しでも多くの人々を救つてあげて欲しい」と。ここには「智的財産の保護」のための「特許」「意匠登録」とか「二子相伝」など「自分だけ」と言う考え方はありません。私はこの報道を見て、この人は私が信じている宗教（仏教）で言う「菩薩」のひとりだと思いました。

そんな立派な方々と比べるべくもありませんが、そんなわけで、この度の『富久品』『ふくもの』に対しては意匠登録しません。それよりも、そんなことを耳にしたお陰で「ふくもの」に関して、さらに閃いた（神が与えてくれた）アイデアを紹介いたします。

「ふくもの」『富久品』です。欲を言えば、「来」は「来」として『富久品』としたいです。

ここで、解説し易くするため、比較として、先号、第四項「神からの頂き品」で申し上げた中から『富久品』『ふくもの』の記事を再記します。

『富久品』『ふくもの』と読みます。

『富久品』では字の品格がよろしくありません。読み方の由来「拭く物」だからです。「顔を拭き、手を拭き、体を拭き、汚れてきた雑巾にしているような物を拭き、捨てる時には感謝の念をおこして、心を拭くのです」。

読み方の意義「ふくもの」は「福物」に通じます。「あなたに福を届けます」。

漢字からの意味「富が久しい品。縁起がいい」。

この度の『富久品』への解説。

読み方の由来・読み方の意義においては同様です。読み方への追加「ふくもの」と読みます。「拭く物」を「拭く者」とも置き換えて「もの」を

「物」物質だけとしてとらえるのではなく、「者」生物（心・精神）ある「もの」とも考えて、一段と人間的情緒を深める。

読み方の意義への追加「ふくもの」は「福物」に通じますと記しましたが「副者」「服者」にも通じます。副者主役ではなく陰から貴方を助ける者。服者貴方につきそって常に貴方を助ける者。

字からの意味「富が（来る・来た・招来する）品。字の品格から『富久品』は左右対称です。左右対称の文字は安定していて、見た目にも安心感があります。横道に逸れませんが、人名も左右対称は宜しいと言われています。例えば、私は姓が「沖」ですから、もう既に左右対称になりません。ちなみに「中」なら左右

対称です。「山田」「高田」「中山」など左右対称の姓はたくさんあります。名にしても、私は「昌弘」ですから、左右対称ではありません。私の息子は「昌幸」ですから左右対称ですが、残念ながら、姓が「沖」ですから左右対称にはなりません。ですから、私は左右対称の人にはこのことを申し上げ、その姓を決めた先祖と、貴方にその名前をつけてくれた親に感謝しなさいと言っています。（但、字画など「占い」的な問題も絡んでくると、姓名については一筋縄では語れませんので別機会に委ねます）

話を元へ戻して、そんな意味からも、『富久品』は『富久品』より勝れた「ふくもの」で、第一に掲げた名字です。

こんな愚痴を言うと、今は亡き「竹平政太郎」様に叱咤されること間違いありません。

彼の人は、常々「物事を決める際には、熟慮に熟慮を重ね、これ以上は絶対後悔しないと思うほど熟慮して決めるべきである。そして一旦決めたら、それを貫くべきである。途中で迷ってはいけない。途中で迷うということは、熟慮が足りなかったと言いうことで、若しそうなら、自分の力がそれまでだったと悟り、潔く、自分の愚かさを認めるべきである。結果に未練を残したり、愚痴・言い訳をするのは一人前の人間（真の修行者）とは言えない」（事を進めるに当たっては、それほど集中して熟慮せよ）と教えてくださいました。

しかし、この度の社員の進言がなければ、私がこの様にこの問題により深く関心を示さず『富久品』にも思い至らなかつたかも知れません。その意味においては、かの社員もこれまた「菩薩」が姿を変えて、私に「熟慮（精神の集中）が足りない」勉強（修行）の程度が足りない」と教化してくれたのだと思われてなりません。そして、この呼び名を「意匠登録」して生活の糧にしたいほど生活に困っている人には「どうぞお使いください」と申し上げます。それこそ、神・仏が私に「菩薩行」をさせてくれると言ふ、有り難い出来事だと思えます。

それから、本通信の愛読者（私の同級生で）から別案を頂きましたのでご紹介いたします。

「打ち出の小槌」をもじって「福出のタオル」（拭く手のタオル）と言つのは如何でしょうか？

きのう寝ている時の、頭が暴走している状態の時に浮かんだ案です。

全くの思いつきですが、笑納下さい。

（アイデアは夜中か夜明けに潜在意識と頭在意識の間で閃きます。彼もまた、夜中に思いつきました）

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘  
個人メール E-mail oki2525@oki-shouten.com  
（この通信への意見を個人宛に連絡はいたしません）